

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地					
大原簿記医療秘書公務員専門学校町田校		平成8年10月8日	川口 清	〒 194-0013 (住所) 東京都町田市原町田四丁目13番18号 (電話) 042-728-7621					
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地					
学校法人 大原学園		昭和54年4月1日	中本 每彦	〒 101-0065 (住所) 東京都千代田区西神田一丁目1番3号 (電話) 03-6261-7717					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
文化・教養	文化教養専門課程	法律行政学科	平成10(1998)年度	-	平成27(2015)年度				
学科の目的	法律および行政に関する専門教育を施し、一般的に公務員として求められる、法律知識、防災知識、パソコンスキルなどを修得し、自立した社会人の育成を目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	資格(その他民間検定等): 一般教養力検定1級、一般教養力検定2級								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,700 単位時間	1,130 単位時間	2,630 単位時間	210 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
				0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率					
400人	254人	0人	0%	5%					
就職等の状況	■卒業者数(C)		103	人					
	■就職希望者数(D)		90	人					
	■就職者数(E)		90	人					
	■地元就職者数(F)		50	人					
	■就職率(E/D)		100	%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		56	%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		87	%					
	■進学者数		11	人					
	■その他		アルバイト2人						
	(令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無						
	※有の場合、例えば以下について任意記載		評価団体: - 受審年月: - 評価結果を掲載したホームページURL: -						
当該学科のホームページURL	https://www.o-hara.ac.jp/senmon/school/machida/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数		1,700 単位時間						
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		30 単位時間						
	うち企業等と連携した演習の授業時数		90 単位時間						
	うち必修授業時数		470 単位時間						
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間						
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間						
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
	(B: 単位数による算定)								
	総単位数		0 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		- 単位							
うち企業等と連携した演習の単位数		- 単位							
うち必修単位数		- 単位							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		- 単位							
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		- 単位							
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		- 単位							
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				7人		
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				2人		
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0人		
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0人		
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0人		
	計						9人		
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		0人							

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先である国家公務員・地方自治体に関する有識者である大学や企業と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②法律行政分野における学修の中心となる法律、基礎教養力、計数能力、トレーニングは勿論のこと、行政の仕組み、コミュニケーション技術や職種別の専門知識などの教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新の情報を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。
- ④当学園の教育課程の編成は一部の学科を除き学園本部が統括している。そのため教育課程編成委員会も各分野ごとに各校共通の組織を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

①位置づけについて

教務部(課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。

②意思決定の過程について

(ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。

(イ)委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。

(ウ)委員会での協議内容は学園教育本部に提出し、学園全校の教育課程編成にも活用していく。

(エ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、就職本部長、教務部長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
城 孝明	町田商工会議所 総務部 部長 兼 会員サービス課 課長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
三宅 真弥	T&A税理士法人 所長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
山田 麻美	山田麻美税理士事務所 所長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
藤井 猛	株式会社ヤマダホールディングス 人事部採用課 課長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
藤沢 秀子	医療法人社団 三友会 あげぼの病院 副院長 兼 看護部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
永井 淳一	社会医療法人社団 正志会 南町田病院 事務長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
加藤 康弘	横浜総務サポートセンター 所長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
高田 康宏	町田市役所 政策経営部 企画政策課 政策研究担当課長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
板垣 大輔	町田市役所 政策経営部 行政経営改革推進担当係長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
川口 清	大原簿記医療秘書公務員専門学校町田校 校長		—
伊藤 則昭	大原簿記医療秘書公務員専門学校町田校 副校長		—
井口 敦	大原簿記医療秘書公務員専門学校町田校 総務課 課長代理		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
 (年間の開催数及び開催時期)
 年2回 (8月、12月)

(開催日時(実績))
 第1回 令和6年8月22日 15:00~17:00
 第2回 令和6年12月11日 15:00~17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
 ・自分の意見を表明できるような発言力に近いコミュニケーション能力が求められている。
 ・周りをしっかりと説得できる。独りよがりにならない能力が必要。
 ・情報リテラシーやTeams等の新しく主流となりつつあるツールを使っていけることが重要。
 ・卒業研究などは主体性を学ぶことができると思うが、1チームあたりの人数を極力抑えられると、効果的になる可能性がある。
 上記を受け、カリキュラムにおいてプレゼンテーションを多く取り入れることや、グループワーク時の班編成などで人数調整を行った。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 ①法律行政分野における実習・演習は、教育社会福祉分野、工業分野等の分野と異なり、企業等との連携の下、学内で行なわれる学習科目が多いことを考慮して、実習・演習の組立を行なう。
 ②企業等との連携による実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
 ③企業等から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を仰ぐ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 法律、経済、行政の仕組み、授業運営に関して官公庁からの講師派遣、打合せを行い、下記の3点について講義内容の質向上のために連携している。
 ① 実習授業内容構築へのサポート
 ② 当該実習授業における評価ポイントの確認
 ③ 授業方法に関する教員への指導

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
行政研究	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	地方自治の制度と意義を学んだ上で、行政の災害対策や高齢者支援における課題など、地方自治体を取り組む諸問題の概要と具体的な取り組み内容を学び、ディスカッション・グループワーク(実習)を行う。また諸問題の解決策を定めプレゼンテーションを行い、評価を受ける。成績評価についても、この評価に基づき行う。なお本科目の研究内容については、授業計画の段階から企業と連携し策定しており、講師派遣の契約を結んでいる。	町田市 防災課 高齢者支援課
法律研究	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	労働法や行政法について最新の法改正や、労働における諸問題を学ぶ。担当の実務者から法改正における知識と業務上で必要な課題を指定していただきディスカッション・グループワーク(実習)を行う。また課題の解決策を定めプレゼンテーションを行い、評価を受ける。成績評価についても、この評価に基づき行う。なお本科目の研究内容については、授業計画の段階から企業と連携し策定しており、講師派遣の契約を結んでいる。	横浜総務サポートセンター 社会保険労務士 加藤康弘様

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 専門的かつ実践的な知識・技能を有し、即戦力となる人材を育成するために、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身に付けなければならない。そのために、教職員研修の環境を整える。具体的には「大原学園町田校教職員研修規定」に従い、専攻分野の知識・技能等を向上させる環境を整備し、所属長の指示または本人の意志により、研修等、受講機会を与えるものとする。校内、校外において学園が企画する研修は下記の通り。 ①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修 ②大学教授等専門分野に特化した講師を招いた研修会の実施 ③学内に設置される付帯教育講座を利用しての自己啓発と促進 また、教職員を対象とした一斉テストや授業録画を実施し教員の自己啓発促進と正しい評価に努めている。	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 国家公務員試験制度改革	連携企業等: 公務人材開発協会
期間: 令和6年12月9日(月)	対象: 当校の教職員より代表者3名
内容 国家公務員・地方公務員に数多くの人事研修を行っている公務人材開発協会より元公務員の講師を派遣して頂き、公務員の服務規定や倫理に関して、ご教授頂いた。公務員倫理法などの法律的知識に留まらず、公僕としての精神など公務員として働く上での実態を学ぶことが目的である。今年度は昨年よりも一歩踏み込んだ具体的な内容を聞くことができ、より実践的な知識を学ぶことができた。	
研修名: 消防とNGOの経験に基づく自助・共助・公助の効果的な関係性	連携企業等: 株式会社タフジャパン
期間: 令和6年12月10日(火)	対象: 当校の教職員より代表者3名
内容 元消防学校教官で消防学校での研修経験も豊富なタフジャパン鎌田様に講義を依頼。あらゆる職種の公務員にとって大きな関わりのある防災において、自助・共助・公助それぞれの在り方と課題について、消防官としてまたNGOとして長く関わってきた経験を基にお話頂いた。	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 発達障害を持つ子どもへの対応方法と保護者アプローチ	連携企業等: 東京都私学財団
期間: 令和6年12月24日(火)	対象: 教職員
内容 発達障害を持つ子どもへの対応方法と保護者アプローチを学び学生指導に生かしていく	
研修名: 教員実践研修指導力養成講座	連携企業等: 東京都私学財団
期間: 令和6年6月～令和6年8月	対象: 教職員
内容 教育指導に必要な指導案の作成と模擬演習を行う。	
(3)研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 公務員の服務と倫理	連携企業等: 鶴養 幸雄氏
期間: 令和7年12月8日(月)	対象: 教職員
内容 人事院でご活躍され、多くの自治体の職員研修も行われている鶴養幸雄氏をお招きし、公務員の服務規程や倫理に関してご教示いただく。公務員倫理法などの法律的知識に留まらず、公僕として働く上での実態を学ぶことが目的である。今期は公務員の給与規定に関して、初任給の決まり方や昨今の賃上げに関する情報もご共有いただける予定。	
研修名: 消防実務・消防メンタル	連携企業等: : 株式会社タフジャパン
期間: 令和7年12月9日(火)	対象: 教職員
内容 元消防学校教官で消防学校での研修経験も豊富なタフジャパン鎌田様に講義を依頼。消防学校や警察学校をはじめとする公安職の研修期間の教育内容などをご講演頂き、公安職公務員の知識と理解を深める。また、公安職の現場において起こっている問題点やニーズを取り上げてもらい、現場サイドから専門学校に期待する教育カリキュラムなどをお話しいただく。また今期は消防学校や現場の話だけにとどまらず、公安職で働いていく上で必要なメンタルトレーニングの方法や、メンタルヘルス対策もお話しいただく予定。	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: R80文章力、応対力向上研修	連携企業等: 中島 博司氏
期間: 令和7年5月1日(木)	対象: 教職員
内容 元中学校校長である中島博司氏が考案したR80という手法を学び、学生の文章力向上やコミュニケーション能力向上のために必要なスキルを学ぶ研修。中島氏の実体験や各教育現場での事例を交え実習も行う。	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2)学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や資金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3)教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行なう事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導體制はあるか。
(4)学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5)学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6)教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8)財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9)法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11)国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

今年度の学校関係者評価委員会にあたり、卒業生の社会適応能力について多くの意見を頂いたため、コミュニケーション能力、組織への適応について、日々の学生指導においてこれまで以上に強く意識していくことを確認した。クラスでの担任の指導はもちろんのこと、全員参加の各種学校行事やクラブ活動を通じて、社会適応能力を高める環境を積極的に提供していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
安藤 肇	学校法人東海大学 東海大学医学部付属病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生
松浦 千可子	私立 光明学園相模原高校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
齋藤 弘樹	株式会社クレスコ・デジタルテクノロジーズ	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生
菅原 亮	私立 旭丘高校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
大野 勇人	相模原市役所	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	卒業生
熊坂 恵司	原町田第二町内会 会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	近隣住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 令和7年10月6日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。

②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。

③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②目標・方針・特色 ③所在地、連絡先④学校の沿革
(2)各学科等の教育	①カリキュラム、時間割、目指す資格 ②検定、資格取得・検定試験合格実績 ③卒業生の進路
(3)教職員	各学科の担当教員紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5)様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6)学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7)学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等の紹介
(8)学校の財務	学園の財務状況公開
(9)学校評価	学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	留学生の募集
(11)その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 令和7年10月6日

授業科目等の概要

法律行政学科 公務員コース																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			基礎数的Ⅰ 数的推理	速度や仕事算など数的分野の基礎的な解法の習得	1前	50	2	○			○		○		
2	○			基礎数的Ⅱ 判断推理	命題や対応表など判断分野の基礎的な解法の習得	1前	40	2	○			○		○		
3	○			基礎数的Ⅲ 空間把握	数学的な基礎知識や空間把握能力を基に、問題を解答する	1前	40	2	○			○		○		
4	○			基礎社会科学Ⅰ 政治	基本的人権や統治機構など憲法の基礎知識を学ぶ	1前	30	1	○			○		○		
5	○			基礎社会科学Ⅱ 経済・社会	金融政策・財政政策・外国為替など、経済の基礎知識、労働問題・環境問題など、社会の基礎知識を学ぶ	1前	40	2	○			○		○		
6	○			総合教養演習Ⅰ 基礎教養	一般教養科目の基礎的な知識を答練練習形式で強化	1前	60	2		○		○		○		
7	○			総合教養演習Ⅱ 実践教養	一般教養科目のより高度な知識を答練練習形式で強化	1後	60	2		○		○		○		
8	○			一般教養Ⅰ	漢字やことわざなど一般教養の中でも特に国語力の習得	1前	30	1		○		○		○		
9	○			一般教養Ⅱ	漢字やことわざなど一般教養の中でも特に国語力の習得	1後	30	1		○		○		○		
10			○	基礎人文科学Ⅰ 地理	気候や産業など地理分野の基礎的な知識の習得	1後	30	1	○			○		○		
11			○	基礎人文科学Ⅱ 日本史	奈良から現代までの日本史の基礎的な知識の習得	1後	30	1	○			○		○		
12			○	基礎人文科学Ⅲ 世界史	中国の歴代王朝と、ヨーロッパ世界を中心とした世界の歴史を学ぶ	1後	30	1	○			○		○		

13		○	基礎自然科学 I 生物	遺伝や細胞など生物分野の基礎的な知識の習得	1後	20	1	○			○	○		
14		○	基礎自然科学 II 地学	地層や大気など地学分野の基礎的な知識の習得	1後	20	1	○			○	○		
15		○	基礎自然科学 III 物理	電気や力学など物理分野の基礎的な知識の習得	1後	20	1	○			○	○		
16		○	基礎自然科学 IV 化学	原子や化学反応など化学分野の基礎的な知識の習得	1後	20	1	○			○	○		
17		○	基礎言語 I 文理・国語	文法などの国語分野の基礎的な知識と文章読解力の習得	1前	20	1	○			○	○		
18		○	基礎言語 II 英語	文法などの国語分野の基礎的な知識と文章読解力の習得	2前	30	1	○			○	○		
19		○	基礎演習 I 数的処理	数的分野全般について、基礎的な問題演習による得点力強化	1通	40	2		○		○	○		
20		○	基礎演習 II 社会科学	政治・経済分野の基礎的な問題演習による得点力強化	1通	30	1		○		○	○		
21		○	基礎演習 III 人文科学	地理・歴史分野の基礎的な問題演習による得点力強化	1後	30	1		○		○	○		
22		○	基礎演習 IV 自然科学	地理・歴史の基礎知識をアウトプットすることで定着を図る	1後	20	1		○		○	○		
23		○	基礎演習 V 知能系科目総合	知能科目全般について、問題演習の繰り返しによる得点力強化	1通	60	2		○		○	○		
24		○	基礎演習 VI 知識系科目総合	知識科目全般について、問題演習の繰り返しによる得点力強化	1通	60	2		○		○	○		
25		○	公務員就職試験対策講義	多様化する公務員試験に対応するための一般教養力の習得	1後	30	1		○		○	○		
26		○	公務員就模倣受験	模倣公務員試験を実施し実際の公務員試験の流れを把握する	1後	20	1		○		○	○		
27		○	就職活動準備	公務員及び民間就職の活動前に基礎的なビジネスマナーや所作を学ぶ	1後	90	3		○		○	○		

28		○ トレーニング 実習	講義から得た知識・技能で実習を行う	1 前	30	1			○	○	○			
29		○ 職業実務Ⅰ	地方公務員の職務に関する知識や心構えなどを有識者から学ぶ	1 後	15	1		○	○	○				
30		○ 職業実務Ⅱ	警察官の職務に関する知識や心構えなどを有識者から学ぶ	1 後	15	1		○	○	○				
31		○ 職業実務Ⅲ	国家公務員の職務に関する知識や心構えなどを有識者から学ぶ	1 後	15	1		○	○	○				
32		○ 職業実務Ⅳ	消防官の職務に関する知識や心構えなどを有識者から学ぶ	1 後	15	1		○	○	○				
33		○ 職業実務Ⅴ	国家公安職の職務に関する知識や心構えなどを有識者から学ぶ	1 後	15	1		○	○	○				
34		○ キャリアデザ インⅠ	面接試験で求められるビジネスマナーや立ち居振舞いを学ぶ	1 通	30	1		○	○	○				
35		○ キャリアデザ インⅡ	面接試験に向けての自己分析・自己PR作成を行う	1 通	30	1		○	○	○				
36		○ キャリアデザ インⅢ	グループワークの形式、役割、手法について学ぶ	1 後	30	1		○	○	○				
37		○ Power Point 基礎	PCの基礎操作並びにPowerPointの基礎操作を理解する	1 通	30	1		○	○	○				
38		○ Excel基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用方法を習得する	1 後	60	2		○	○	○				
39		○ ITリテラシ	ネットワーク、セキュリティの知識とコンピュータの基本操作を学ぶ	1 後	90	3		○	○	○				
40		○ 時事	現代社会における主要な時事の基本用語を理解し、自分の意見や考えを持つための学習	1 後	30	1		○	○	○				
41		○ IT基礎知識Ⅰ	IT基礎知識（テクノロジー分野・マネジメント分野・ストラテジ分野）を学ぶ	1 後	90	3		○	○	○				
42		○ ビジネス教養 Ⅰ	電卓技能や一般教養問題演習による総合的なビジネススキルの習得	1 通	30	1		○	○	○				

43	○		ビジネスマナー	敬語や接遇、電話応対などの基礎的なビジネスマナーの習得	2後	60	2				○	○	○				
44	○		パソコン実習 I	WORDやEXCELの知識を学び、実践することでビジネススキルとして習得する	2後	30	1				○	○	○				
45		○	基礎人文科学総合	西洋および東洋の倫理や芸術、文学を学ぶ	2前	20	1	○				○	○				
46		○	基礎自然科学総合	理数系科目の基礎を幅広く総合的に学ぶ	2前	20	1	○				○	○				
47		○	基礎数学 I	関数や代数など数学分野の基礎的な知識の習得	2前	20	1	○				○	○				
48		○	応用演習 数的処理 I	問題演習を通じ、数的処理の応用知識を学ぶ	2前	20	1		○			○	○				
49		○	応用演習 数的処理 II	問題演習を通じ、数的処理の応用知識を学ぶ	2前	20	1		○			○	○				
50		○	応用演習 知識系科目総合 I	問題演習を通じ、知識系科目の応用知識を学ぶ	2前	20	1		○			○	○				
51		○	応用演習 知識系科目総合 II	問題演習を通じ、知識系科目の応用知識を学ぶ	2前	20	1		○			○	○				
52		○	応用演習 数的処理本試験対策	数的分野全般について、更なる問題演習による試験直前の応用力強化	2前	20	1		○			○	○				
53		○	応用演習 知識系科目本試験対策	知識系科目全般について、更なる問題演習による試験直前の応用力強化	2前	20	1		○			○	○				
54		○	総合答案練習 I	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2前	150	5		○			○	○				
55		○	直前答案練習 I	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2前	180	6		○			○	○				
56		○	直前答案練習 II	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2前	120	4		○			○	○				
57		○	直前答案練習 III	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2後	30	1		○			○	○				

58			○ 公務員時事対策	自然科学から国際問題まで幅広いジャンルの社会時事を学ぶ	2前	30	1	○			○	○			
59			○ 公務員時事研究	就職先に関連する社会的ニュースを考察する	2前	60	2		○		○	○			
60			○ 公務員就職試験対策演習	多様化する公務員試験に対応するための一般教養力の習得	2前	30	1		○		○	○			
61			○ 公務員キャリアデザイン 公務員春試験	公務員春試験の二次試験を踏まえた実践的な面接の練習	2前	30	1		○		○	○			
62			○ 公務員キャリアデザイン 公務員秋試験	公務員秋試験の二次試験を踏まえた実践的な面接の練習	2後	120	4		○		○	○			
63			○ 公務員適性検査演習Ⅰ	国家公務員試験の適性試験対策として、問題演習による得点力の強化	2前	60	2		○		○	○			
64			○ 公務員適性検査演習Ⅱ	国家公務員試験の適性試験対策として、問題演習による得点力の強化	2前	30	1		○		○	○			
65			○ 公務員教養論文対策	公務員初級試験を見据えての文章作成スキルの習得	2前	30	1		○		○	○			
66			○ 公官庁講話	現役公務員の様々な職種の方の講話を聴き職種への理解を深める	2前	20	1	○			○	○			
67			○ 公務員倫理	公務人材開発協会より講師をお招きし、公務員に関する法令や服務規程を学ぶ	2後	15	1		○		○	○			
68			○ 卒業前特別講座	社会人として必要な考え方やスキルを学ぶ	2後	30	1	○			○	○			
69			○ 法律研究	法律に関する講義を受け、研究および発表を通じて法律の考え方を学ぶ	2後	30	1		○		○	○			○
70			○ 行政研究	地方自治体の課題に関する講義を受け、研究・発表を通じて行政課題への理解を深める	2後	30	1			○	○	○			○
71			○ ビジネス教養Ⅱ	電卓の学習を通じ、計算技能・集中力を養う	2通	30	1		○		○	○			
72			○ コミュニケーション概論	グループワークの形式、役割、手法について学ぶ	2前	30	1		○		○	○			

73		○ 英会話入門	日常生活での簡単な英会話を事例をもとに学習する	2通	30	1	○			○				○	○
74		○ Word基礎	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解する	2通	30	1		○		○				○	
75		○ パソコン実習Ⅱ	Excelの資料作成、作業スピードを向上するテクニックを習得する	2通	30	1			○	○				○	
76		○ パソコン実習Ⅲ	応用的な機能を活用した文書作成や複雑なデータ集計を行うスキル習得のための実習	2通	30	1			○	○				○	
77		○ FP基礎	日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける	2前	120	4	○			○				○	
78		○ FP応用	日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける	2前	60	2		○		○				○	
79		○ FP総合	「お金」に関する総合的な知識を深め、経済社会との関係性を理解する	2前	90	3		○		○				○	
80		○ マーケティング概論	マーケティングの必要性と目的を学習する	2後	60	2	○			○				○	○
81		○ 卒業研究・発表	実店舗を題材にして、課題に対する改善案を提案し発表する	2後	60	2		○		○				○	○
82		○ 経理実務	経理実務で必要となる業務内容を体系的に学び、知識を習得するための講義	2通	60	2	○			○				○	
83		○ 給与計算実務	所得税・住民税の基礎知識を体系的に理解し、特に年末調整事務に必要な知識を習得する講義	2後	30	1	○			○				○	
84		○ 財務会計	財務諸表の作成に関する知識と技術を身につけ、財務会計の意義や制度を理解するための講義	2後	90	3		○		○				○	
85		○ ITパスポート基礎	情報技術の基礎となる考え方・仕組み・専門用語を理解する	2通	90	3	○			○				○	
86		○ ITパスポート・リテラシ演習	情報技術の考え方・仕組み・専門用語を問題演習を通じて学ぶ	2後	30	1		○		○				○	
87		○ ITパスポート応用	基礎レベルではやや難しい情報技術の考え方を問題を演習を通じて学ぶ	2後	60	2		○		○				○	

88		○	販売知識基礎	仕入れ在庫管理・接客マナー・企画立案、マネジメントの知識を理解する	2通	90	3	○			○		○	
89		○	販売知識応用	小売業について体系的に学び、実務的なビジネスの知識を理解する	2後	90	3	○			○		○	
90		○	IT基礎知識Ⅱ	IT基礎知識（テクノロジー分野・マネジメント分野・ストラテジ分野）を学ぶ	2前	90	3		○		○		○	
合計					90 科目		144(3,970) 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	1. 授業科目の成績評価に基づいて、卒業審査により課程修了の認定を行う。 校長は、本校所定の課程を修了したと認めた者には、卒業証書を授与する。 2. 前項に規定する卒業の認定は、最終学年の終わりに行う。	1学年の学期区分	2期
履修方法：	1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。 2. 本校において必要と認めた場合に限り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。 3. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。	1学期の授業期間	22週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。